

天下耶。略○中 中臣鎌子連爲人惠正有匡濟心、乃憤蘇我臣入鹿失君臣長幼之序、挾闢闢社稷之權、歷試接王宗之中、而求可立功名哲主、便附心於中大兄。○天 疏然未獲展其幽抱、偶預中大兄於法興寺、槐樹之下、打毬之侶、而候皮鞋隨毬脫落、取置掌中、前跪恭奉、中大兄對跪敬執、自茲相善、俱述所懷、既無所匿、復恐他嫌頻接、而俱手把黃卷、自學周孔之教於南淵先生所、遂於路上往還之間、並肩潛圖、無不相協。

〔梅城錄〕略記○扶桑 曰、昌泰三年正月三日、帝○醍醐 行幸朱雀院、與太上皇○宇多 密議、召菅相府、獨對有關

白詔、相府固辭、因奏有召無事、人必怪訝、即以春生柳眼中爲題獻詩、是日兩帝皇行后宮、各賜御衣、榮曜無比、左大臣○藤原 頗變色。

〔本朝文粹七〕奉菅右相府書

善相公

清行頓首謹言。○中 伏惟尊閣、挺自翰林、超昇槐位、朝之寵榮、道之光花、吉備公外、無復與美。○中

昌泰三年十月十一日

文章博士三善朝臣清行

〔十訓抄三〕御堂關白○藤原 物へおはしけるに、道に荷負馬の先にたちたる小童の手に文をさげてよみけるを、あやしとおぼして、ちかくめしよせて、御らんじければ、眼に重腫有て、いみじく賢き相のえたりければ、やがてめして、匡衡につけて、學文をせさせられけるほどに、後には大江時棟とて、廣才博覽の文士なりければ、君に仕へて、博士の道をつげり、養生の方をさへつたへて、壽考の人たりき。

〔十訓抄二〕肥後守盛重は、周防の國の百姓の子なり、六條右大臣○源房 の御家人になにがしとかや、かの國の目代にて、くだりたりけるに、次ありて、かの小童にてあるを見るに、魂ありげなりければ、よびとりていとおしくしけるを、京にのぼりてのち、供に具して大臣の御許に參たりけるに、南面に梅木の太なるがあるを、梅とらんとて、人の供の者ども、あまた礫にて打けるを、主のあや